

平成 22 年度 事業報告書

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

【実施方針】

- 1 生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。
- 2 市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。
- 3 財団が有する専門性・柔軟性を生かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

1 **学習機会提供事業**

(寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業)

(目的) 施設機能を活用し、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、幅広い年齢層の多様化したニーズに対応した学習機会を提供する。

(支出額) 20,598,026 円

(1) さっぽろ市民カレッジ事業

年 3 期(平成 22 年 4～8 月、9～12 月、平成 23 年 1～3 月)に分け、市民活動系、産業・ビジネス系、文化・教養系の 3 つの系で、248 講座を実施した。

市民参画によるくちえりあ学習ボランティア企画講座>および市内 14 のコミュニティ施設と連携して市民の学習成果を発揮してもらうくご近所先生企画講座>を開くなど、コーディネート機能を活かし、全市的な事業展開を図った。

また、市立札幌大通高校と連携して<学社融合講座>を実施し、世代間交流を進めるとともに学びのコミュニティづくりを図った。この講座は同校のカリキュラムに組み入れられ、受講生には単位が認定されている。また、講座の約 4 割にはご近所先生企画講座で経験を積んだ人材を講師に活用した。

【実績】全 248 講座実施

	センター 企画講座	ちえボラ 企画講座	ご近所先生 企画講座	学社融合 講座	講座数計	受講者数 計
市民活動系	22	5	—	4	31	475
産業・ ビジネス系	23	—	—	7	30	421
文化・ 教養系	27	6	134 ちえりあ(104) 地域(30)	20	187	3,423
合計	72	11	134	31	248	4,319

受講者数 4,319 名／修了者数 3,458 名

学位取得者：「学士号」13 名、「修士号」7 名、「博士号」5 名

学位取得者累計：「学士号」70 名、「修士号」40 名、「博士号」30 名

(2) 生涯学習関連機関等連携事業

ア インターンシップ等

北海道大学、北海学園大学、札幌東商業高校の学生・生徒を受け入れ、就業体験研修（インターンシップ）を実施した。また、宮の森中学校生徒の職業体験を受け入れた。

【実績】受け入れ数 4 校、参加者数 30 名

イ 各区との連携事業

区役所等と連携してまちづくりの推進に寄与する事業を実施した。

(7) 手稲区まちづくり体験事業

まちづくりに関心を持つ市民の活動開始のきっかけづくりを図る事業を手稲区より受託し、「これであなたも“ふるさとレポーター”」と題した講座を実施した。（平成 23 年 1 月）

【実績】受講者数 8 名

(4) 手稲区歴史発見親子バスツアー

小学生等と親を対象に、手稲区作成の歴史マップを活用して地域の歴史や文化を学ぶ事業を手稲区より受託し、実施した。（平成 22 年 8 月）

【実績】受講者数 親子 14 組 34 名

(ウ) 手稲区まちづくり寄席

ご近所付き合いの大切さを「笑い」と「江戸の文化」から学び、地域のまちづくり活動へつなげる公演を手稲区より受託し、実施した。（平成 23 年 2 月）

【実績】参加者数 214 名

(エ) 西区ときわ大学（新規）

高齢者を対象に、生涯学習のきっかけづくりと生きがい・仲間づくりを支援する事業を西区より受託し、全14回のカリキュラムで実施。ご近所先生の講師を活用し、市民による学び合いを推進した。（平成22年8～10月）

【実績】受講者数 50名

2 人材活用育成事業

（寄附行為第4条第2号に掲げる事業）

（目的） 市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民活動およびまちづくり活動を担う人材を育成する。

（支出額） 1,492,608円

(1) 学習支援者活用推進事業

市民カレッジの修了者が受講経験を活かす場を設け、学んだ成果を活用した。

ア 市民講師育成

「ご近所先生企画講座」の開講を前にした市民を対象に、必要な知識やノウハウの取得を図る研修会を開催した。

【実績】参加者数 162名

イ 市民ファシリテーター

「ファシリテーションの基礎」講座修了者に、同講座の補助講師を務めてもらった。

【実績】登録者数 2名

ウ ちえりあビデオクルー

映像メディア講座の受講生によるグループに生涯学習センターの事業、まちづくり活動、地域の行事や文化・自然などを撮影・編集してもらい、センターのホームページで作品を発信した。また、映像メディア講座の講師を務めてもらった。

【実績】登録者数 17名

エ コーラスボランティア「チェリーズ」（新規）

「楽しく歌ってボランティア」講座の修了者により新たに結成されたグループが福祉施設慰問などのボランティア活動を始めた。ボランティア活動のノウハウ等の助言をしながら、その活動を支援した。

【実績】登録者数 15名

(2) 生涯学習関連施設職員研修事業

区民センターや地区センターの職員を対象に、地域住民の学習活動及びまちづくりの支援のため、チラシやPOPづくりなど事業PRのノウハウを学ぶ研修講座を実施した。(平成23年2月)

【実績】参加者数 30名

(3) 生涯学習ボランティア育成事業

市民カレッジ講座の企画・運営に関わる「ちえりあ学習ボランティア」、視聴覚教育に関わる「オンデマンド」「レインボー」の活動を助け、ちえりあフェスティバルへの参加や研修会開催を支援した。なお、「レインボー」は33年間にわたり聴覚障がい者のために映画の字幕づけを行ってきたが、字幕付きDVDの普及によりその役割を終えたとして平成22年度で活動を終了した。

【実績】研修回数 10回、「ちえりあ学習ボランティア」登録者数 49名

3 学習活動支援事業

(寄附行為第4条第3号に掲げる事業)

(目的) 情報の収集と発信および学習相談などを行って市民の生涯学習活動を支援するとともに、きっかけづくりの機会を提供して、生涯学習の普及啓発を図る。

(支出額) 21,337,729円

(1) メディアプラザ運営事業

生涯学習についての幅広い情報を提供するメディアプラザを運営し、学習相談、人材・サークル等の情報提供、図書の閲覧・貸し出し、音楽・映像・語学教材の視聴、インターネットによる情報検索など、市民の学習活動を総合的に支援した。また、平成21年度に参入した中央図書館ネットワークによる利用者サービスも順調に進んだ。

【実績】メディアプラザ利用者数 36,420名

(2) 生涯学習情報収集・発信事業

ア 広報誌「La Chieriatte (ら・ちえりあって)」の発行

生涯学習センターの機能や事業を市民にPRする広報誌「La Chieriatte (ら・ちえりあって)」を発行した。

【実績】年4回発行(平成22年6・9・12月、平成23年3月)計60,000部

イ ちえりあ市民記者クラブ（新規）

「La Chieriatte」の誌面づくりを通して文章の書き方などを実践的に学ぶ講座を実施した。（平成 23 年 2 月～8 月）

【実績】参加者数 3 名

ウ ホームページでの案内

講座やイベント等の情報を掲載し、事業内容を紹介する動画の配信も行った。

【実績】アクセス数 1,002,469 件

メールマガジン配信回数 39 回

メールマガジン登録者 2,061 名

エ 生涯学習情報誌の発行

市内での生涯学習機会の総合情報を市民に提供する学習情報誌を発行した。

【実績】年 2 回発行（平成 22 年 9 月、平成 23 年 3 月）計 6,000 部

オ 「子どもの学びガイド」の発行

市内の子ども向け学習機会の総合情報を全市立小学校児童に発信する「子どもの学びガイド」を発行した。

【実績】年 4 回発行 計約 372,000 部

（3）生涯学習普及啓発事業

ア ちえりあフェスティバル

生涯学習センター、宮の沢若者活動センター、教育センター、リサイクルプラザの 4 施設が共同して市民と交流を深める「ちえりあフェスティバル」を館の内外をフルに使い、ちえりあボランティアの参加も得て 3 日間にわたり開催した。1 階ロビーの特設ステージではロビーコンサートやびっくり料理ショー、研修室では市民カレッジの 9 つの講座を 1 日体験できる特別講座「ちえりあ何んでも学校」、「親子で踊ろう」「子ども映画会」などをにぎやかに実施した。（平成 22 年 8 月）

【実績】参加者数 14,457 名（3 日間）

イ サークル発表会

「ちえりあ」や市内の他の施設で活動している団体間の交流と学習意欲の向上を目的に、音楽や舞踊などの舞台部門と書道や絵画などの展示部門とで実施した。（平成 22 年 11 月）

【実績】参加数 50 団体（626 名） 来場者数 1,457 名

ウ 幼稚園児のお絵かき展

社団法人札幌市私立幼稚園連合会の協力のもと、生涯学習センターロビーで幼稚園児による作品展を毎月下旬に開催した。

【実績】参加園数 14 園

エ ちえりあロビーコンサート

出演団体を公募し、音楽活動の発表の場と市民が気軽に音楽文化に触れる機会を提供した。(年 10 回)

【実績】参加団体 10 団体 観覧者数 延べ 1,200 名

オ 市民カレッジ作品展

受講生の学習成果発表と学習意欲のさらなる向上を図るため、ロビーで作品展を随時開いた。

カ ちえりあ開館 10 周年記念事業 (新規)

開館 10 周年を記念して、日ごろの利用に感謝し、また、新しい利用者拡大へとつながるよう、講演会、音楽会等を開催した。併せて、利用者感謝キャンペーンも実施した。

- 合田道人講演会「あの日の歌景色」(平成 22 年 6 月)

【実績】308 名

- さっぽろ市民カレッジ特別講演会 辻井いつ子「子どもの才能をどう引き出すか」(平成 22 年 7 月)

【実績】401 名

- 大平まゆみ「お母さんと赤ちゃんのちえりあゆりかごコンサート」

(平成 22 年 8 月)

【実績】256 組

- ちえりあアーティスト 國松明日香「10 年前の私と今」(平成 22 年 9 月)

【実績】28 名

- 金子勇「高度成長期を走りぬけた吉田正の歌の世界」(平成 22 年 10 月)

【実績】277 名

- フィンランドデイズ JPP コンサート(平成 22 年 11 月)

【実績】296 名

- 坂東元 舟迫将信“旭山動物園～ペンギン翔ぶ～”から 10 年～挑戦者たちの今～(平成 22 年 12 月)

【実績】213 名

- 北海道吹奏楽フェスティバル(平成 23 年 1 月)

【実績】1 日目 300 名 / 2 日目 310 名 (参加団体 2 団体)

- 青島広志のおもしろクラシックコンサート(平成 23 年 2 月)

【実績】439 名

- ちえりあコンチェルト(平成 23 年 3 月)

【実績】413 名

●貸室無料キャンペーン（平成22年5月～12月の一斉受付時）

【実績】各回 5組

（4）共催事業

ア 中学校校内放送コンテスト（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

市内中学校の放送局員が制作した番組とアナウンサーのコンテストを開催した。

（平成22年7月）

【実績】参加校数：4校 22名

作品数：テレビ番組部門 2作品

ラジオ番組部門 1作品

イ 中学校校内放送技術講習会（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

市内中学校放送局員の技術向上を図るための講習会を実施した。（平成22年8月、平成23年1月）

【実績】8月 参加数 11校 38名／1月 参加数 8校 37名

ウ 日本映画名作祭2010（共催：札幌映画サークル）

東京国立近代美術館フィルムセンター提供により、木下恵介監督の4作品を2日間上映した。札幌映画サークルと実行委員会を組んで実施した。（平成22年11月）

【実績】入場者数 1,483名

上映作品「二十四の瞳」「カルメン故郷に帰る」「野菊の如き君なりき」

「喜びも悲しみも幾歳月」

（5）文化振興事業

質の高い芸術・文化に触れる機会を提供して地域の文化を活性化させるため、以下のイベントを開催した。

ア ちえりあ寄席

社団法人落語芸術協会と連携し、本格的なしつらえで「ちえりあ寄席」を実施した。（平成22年8月）

【実績】4公演 1,578名

イ ちえりあ学生寄席

「ちえりあ寄席」のステージを活用し、落語などの芸能文化を学ぶ学生（北海道大学落語研究会）に成果を発表する機会を提供した。（平成22年8月）

【実績】297名

ウ 落語学校鑑賞会

落語芸術協会と連携し、西区、手稲区、中央区の小学校6校を無料招待して、子どもたちに落語に触れてもらう鑑賞会を実施した。(平成22年6月)

【実績】6公演 1,575名

(八軒小、山の手南小、三角山小、日新小、手稲鉄北小、前田中央小)

エ ちえりあ特選若手落語会

次代を担う若手落語家の魅力を市民に紹介するとともに、気軽に落語を楽しむことのできる機会を提供した。(平成22年6月)

【実績】1公演 323名

オ さっぽろの歴史と音楽の夕べ～日本各地の唄探し“西区八軒”の旅～

NPO法人フィールドワークスジャパン 民俗芸能伝承学舎および八軒地区の連合町内会と連携し、地域の「語り部」が八軒の歴史や文化を伝え、これからのまちづくりについて考える住民参加型のイベントを開催した。(平成22年9月)

【実績】1公演 345名

カ カルチャーナイト

全体テーマ「たからもの」にあわせ、ちえりあロビーで「子ども映画祭り in ちえりあ」を開催した。(平成22年7月)

【実績】参加者数 188名

キ イマジン音楽祭

イマジン音楽祭実行委員会と連携し、小・中・高の児童・生徒が平和をイメージして作った詩に札幌ゆかりの音楽家が曲を付けて発表するコンサートを実施し、音楽を通じた平和教育を推進した。(平成22年10月)

【実績】詩・絵の応募数 700点／コンサート入場者数 181名

ク 第2回北海道吹奏楽フェスティバル in ちえりあ

北海道吹奏楽プロジェクトと連携し、中学・高校の吹奏楽部による演奏やプロとの合奏レッスン公開を行い、吹奏楽活動支援のひとつのあり方を示した。本事業は、開館10周年記念事業の一環に位置づけた。(平成23年1月)

【実績】1日目300名／2日目310名(参加団体2団体)

ケ FINLAND DAYS!! (新規)

NPO 法人コンカリーニョおよび札幌市中央図書館と連携し、「フィンランド」をテーマに、約1カ月にわたり様々な文化イベントを開催した。

それぞれの施設や団体が有する専門性と施設特性を活かし、絵本の読み語り、書籍の展示、歴史や文化を学ぶ講座、音楽ワークショップやJPPコンサートなど多様な事業を盛り込んだ。JPPコンサートは、開館10周年記念事業に位置づけた。(平成22年10～11月)

【実績】約1,000名

コ ちえりあオペラシアター

当センター所蔵のオペラ教材を用い、市民に質の高い芸術に気軽に触れられる機会を提供した。

【実績】6回 入場者数計 635名

サ ちえりあ映画会

当センター所蔵の映像教材(16ミリフィルム・ビデオ・DVD)を用いた映画会を実施した。また、ボランティア団体と協働で、視聴覚障がい者も鑑賞できる映画会とした。

【実績】6回 入場者数計 2,038名

4 調査研究事業

(寄附行為第4条第4号に掲げる事業)

(目的) 市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

(効果) 財団が有する専門性と生きた情報を元に行った調査研究により、事業内容の改善に活かすことができた。

(支出額) 335,580円

(1) 生涯学習に関わる調査研究

生涯学習関連施設におけるICT(情報通信技術)の有効活用法を先進事例から学び、また市民(学習者)へのアンケート調査によりICT利用の実際と効果的な活用方法を探った。この結果は今後の生涯学習センターホームページの改修および各種事業の広報に生かしていく。

5 生涯学習関連施設管理運営事業

(寄附行為第4条第5号に掲げる事業)

(1) 札幌市青少年科学館等管理運営事業

札幌市からの指定を受け、科学および科学技術に関する知識の普及啓発を通して創造性豊かな青少年等の育成を図ることを目的に、札幌市青少年科学館の管理運営を行った。

(支出額) 389,056,873 円

ア 展示事業の運営

(7) 常設展示

科学の原理や技術等を「見て」「触れて」「考える」ことができるよう、宇宙、北方圏、電気、力学などのテーマに沿った展示物を管理・整備するとともに、より楽しく理解しやすいものにするための工夫を行い、来館者に科学への興味・関心を高めてもらえるよう努めた。

(4) 展示実演等

科学の原理や技術について楽しみながら理解を深められるよう、サイエンスショー、テレビスタジオ、低温展示室などで参加型の実演を行った。

(ウ) 特別企画の開催

・夏休み・冬休み特別展

話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた体験型の特別企画を実施した。

夏の特別展「サイエンジャーとエネルギーパーク」	
趣旨及び概要	身近にあるエネルギーについて学ぶとともに、実際に自分でエネルギーをつくり、エネルギーへの理解を深めてもらう。
実施期間	7月24日～8月22日(30日間)
展示構成	導入部ではエネルギーの歴史をパネルで学び、「風力エネルギー」「熱エネルギー」「音のエネルギー」「自転車発電」「振動エネルギー」「食べ物からのエネルギー」それぞれに体感型展示物を配置し、実演ショーも行った。
入館者数	66,948名
冬の特別展「サイエンジャーとふしぎな魔術館」	
趣旨及び概要	光や磁石、目の錯覚など不思議な現象を体験してもらい、解説パネルでその現象への興味と理解を深めてもらう。
実施期間	1月5日～1月23日(19日間)
展示構成	魔術館に迷い込んだような感覚を体験してもらうため、入口に鏡と光を利用したトンネルを設置した。中では、トリックア

	ートをはじめ約 30 点の展示物で不思議な現象を楽しんでもらい、マジックショーや工作会も行った。
入館者数	26,687 名
春イベント「新学期だよ！春のサイエンス！！」	
趣旨及び概要	新学期を迎える子どもたちに、次のステップで学ぶ分野を実験や工作をとおして楽しく学んでもらう。
実施期間	3月26日～4月3日（全9日間）
展示構成	校門をくぐると理科室や工作室、体育館などがあり、それぞれのブースで各教科を遊びながら学んでもらえるような展示物を配置した。また、多目的室では毎日内容の異なる実演ショーや実験教室を行った。
入館者数	21,306 名

・巡回展・企画展等

話題性の高いテーマや特定のテーマを掘り下げた巡回展や企画展を実施し、常設展示では伝えきれない科学情報を提供した。

はやぶさ帰還カプセル特別展示 in 札幌（新規）	
趣旨及び概要	7年にわたる宇宙の旅を終えて平成22年6月に帰還した小惑星「イトカワ」の探査機「はやぶさ」の偉業を肌で感じてもらい、宇宙への興味・関心を抱いてもらう。
実施期間	2月11日～2月14日（全4日間）
展示構成	宇宙から帰還した実物（インスツルメントモジュール・搭載電子機器部・パラシュート・背面ヒートシールド）と、前面ヒートシールド・帰還カプセルカットモデル・はやぶさ1/8スケールモデル等のレプリカを配置するとともに、はやぶさプロジェクトのパネル展示を行った。
入館者数	11,792 名

(イ) 講座・教室等

科学への関心・興味を喚起し科学に親しむための実験、工作教室、講座等を行った。

日曜実験室	子どもを対象に、生活に密着した題材や遊びの要素を取り入れた実験教室を延べ64回実施した。 【実績】734名 テーマ：4月 「1mmってどれくらい？」 5月～8月 「動かない？止まらない？」 ～「慣性」の秘密～ 9月～12月 「見えない内部を推理せよ！」 ～電気の少年探偵団～ 1月～3月 「酸性・アルカリ性ってなあに？」 ～レインボー寒天をつくってみよう！～
科学館の工作室	<小中学生向け> 科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得とものづくりへの興味の喚起を目的に、延べ83回実施した。 【実績】4,267名 「フリースロー君」他26種類

	<p><小学校高学年以上向け> 小学校高学年から一般までを対象に実施した。 【実績】50名 「ロボットサッカーで遊ぼう ～はんだ付けに挑戦!～」他</p>
サイエンジャー 科学教室	<p>小中学生を対象に実施した。また特別編として、夜間に大人向けの科学教室も試行的に実施した。 【実績】子供向け14日28回690名、大人向け4日4回45名 「土曜サイエンス劇場『犯人はだれだ?』」 「バナナの皮ですべるのは?～まさつの不思議～」 「台所の化学」(大人向け)他</p>
親子向け 実験・工作教室	<p>親子と一緒に、科学をより身近で親しみやすく感じてもらうことができる実験・工作教室を実施した。 【実績】2回34組68名 「手作りキャンドルをつくろう!」他</p>
先端科学技術講座	<p>科学技術への親しみと関心を喚起するため、優れた研究を紹介する事業を実施した。(平成23年1月) 【実績】1回107名 「CAMUI型ロケットのすべて」</p>
工作技術競技会	<p>細長い風船に羽やおもりをつけて、的に向かって投げて点数を競う競技会を実施した。 【実績】5日間13,787名</p>
バックヤード ツアー	<p>普段見ることのできない展示室の裏側を見学する事業を実施した。 【実績】2回31名</p>
科学クラブ (Sciキッズ)運営	<p>小中学生を対象に半年毎にクラブ会員を募り、会員向けの実験・工作教室等を開催し、リピーターの拡大に繋げた。</p>

(オ) 学校連携・支援事業等

主に市内小学校・中学校と連携して教室や講座を実施した。また、授業等への支援や、学校活動への支援を行った。

移動科学館	<p>小学校に出向いて実験や実演などを行い、理科授業に協力した。 【実績】1校21名</p>
幼児のための 出前サイエンス	<p>幼稚園等へ出向き、遊びの要素を多く取り入れた実験・実演・工作教室を開催した。 【実績】13園1,628名 「サイエンスマジシャンのふしぎなマジック」他</p>
中高生による 科学教室	<p>中学・高校生自身の研究成果や製作品等を展示・実演・解説する機会を提供した。(平成22年10月) 【実績】8校79名 (宮の森中学校・屯田北中学校・平岡緑中学校・柏中学校・旭丘高校・北高校・清田高校・藻岩高校)</p>
大学生による 科学教室	<p>大学生が講師となり子どもたちに科学教室を実施する機会を提供した。(平成22年11月・平成23年2月) 【実績】3校5テーマ90名 (北海道大学・千歳科学技術大学・北海道工業大学)</p>
総合的な学習の 受け入れ	<p>自主研修等を受け入れ、児童生徒からの質問に対応し、総合的な学習への支援を行った。 【実績】68校1,159名</p>

職業(職場)体験の受け入れ	小中高からの依頼により職場体験を受け入れ、学習活動への支援を行った。 【実績】11校 60名
実験実習セットの貸し出し	学校では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、授業効果の向上に協力した。 【実績】14校(団体) 23セット
教材教具の共同開発	市内中学校理科教諭の協力のもと、実験・実習セットを開発・制作した。 【実績】制作キット「エネルギー変換キット」改良版
教員研修	授業やクラブ活動に生かせる観察・実験の紹介および実習を中心とした研修を実施した。 【実績】2回 28名
博物館実習等の受け入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得を目指した博物館実習生やインターンシップ体験実習等を受け入れ、指導した。 【実績】2期 5名

(カ) 環境科学展

市民の環境保全への取り組み意識を高めるため、他団体(企業等)と連携して、環境問題と対策技術の現状などを紹介する事業を実施した。(平成23年2月)

【実績】出展団体 10団体 観覧者数 2,316名

(キ) 科学館ボランティアの養成事業

実験や工作の手伝い体験により、自らが楽しみながら科学普及の一翼を担えるような科学館ボランティアを養成した。

【実績】登録者数 7名

イ 天文事業の運営

(7) プラネタリウム投影

プラネタリウムの機能を活かし、天文への理解を促した。

一般投影	星や星座についてわかりやすく解説し、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。 【実績】1,286回 100,525名
学習投影	小中学校の理科授業の一環として、教室内では表現できない天体の動きや満天の星空を疑似体験してもらうことにより、天文への興味関心を喚起した。今年度は新たに小学校6年生を対象とした投影も実施した。 【実績】122回 211校 16,516名
特別投影	季節あるいは新しい天文的話題をテーマに、対象を絞った投影や通常よりも掘り下げた内容の投影を夜間を中心に行った。 【実績】8回 1,237名 「ヒーリングプラネタリウム～宇宙浴～」他
イブニングプラネタリウム	日中に行っている一般投影を週末の夜間に行うことで、通常の投影時間では来館できない人に観覧機会を提供した。 【実績】3回 282名

字幕つき プラネタリウム	一般投影に字幕をつけることにより、聞きとりに困難を伴う人に鑑賞の機会を提供した。また、星の名前や用語などを視覚的に表現することで、学習理解を助けた。 【実績】8回 399名
-----------------	---

(イ) 天体観望事業

天体観望会	プラネタリウム特別投影やイブニングプラネタリウムに併せて、科学館駐車場において移動天文車等を使った観望会を行った。 【実績】8回 750名
移動天文台	移動天文車を各所に派遣し、天文台を利用する機会の少ない市民に、自分達の住む地域で気軽に天体観望する機会を提供した。 【実績】45回(団体) 4,491名
札幌市天文台 夜間公開	天体観望の機会を提供し、天文に関する話をしたり質問に対応したりすることで、都心近接の天文台をさらに利用してもらい天文に対する興味・関心を高めてもらうよう努めた。 【実績】42回 1,477名
月食観望会	6月の部分月食、12月の皆既月食の折に、札幌市天文台において月食を観望する事業を実施した。 【実績】2回 400名
太陽観望会	ゴールデンウィーク期間の日中に、科学館正面玄関前にて太陽を観望する事業を実施した。 【実績】5日間 348名
土星観望会	ゴールデンウィーク期間に、科学館駐車場にて土星を観望する事業を実施した。 【実績】5日間 375名

(ウ) 教室・講座等

天文に関する理解を深めてもらうための講座や教室を実施した。

大人のための 天文教室	初心者向けの教室や、天文について一歩踏み込んで知りたい人を対象にした中級者向けの教室など、学習段階に応じた内容に分け、天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら実施した。 【実績】初心者向け 3回 82名 中級者向け はじめての天体写真講座 1回 29名 詳しく学ぶ天文教室 2回 61名
親子天文教室	小学生とその保護者を対象に、天文工作(手作り望遠鏡等)と天体観望を組み合わせた講座を実施した。 【実績】夏期2回 58組 129名 冬期2回 63組 142名 「手づくりの天体望遠鏡で星をみよう」他
宇宙セミナー	第一線で活躍する専門家を招いて、宇宙・天文についての興味・関心を高めるための講座を実施した。(平成23年3月) 【実績】大人向け 107名 『あかつき』と専用望遠鏡で迫る惑星の謎 / 北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻 高橋幸弘教授

(エ) プラネタリウム祭り

プラネタリウム探検、絵本の読み聞かせ、サイエンスショー、サンピアザ水族館飼育員の解説の企画を盛り込んだ「第5回プラネタリウム祭り」を開催し、普段とは違った内容で、プラネタリウムの可能性追求およびPRに努めた。(平成22年12月)

【実績】3,819名(全4日間)

(オ) 4次元デジタル宇宙シアター

国立天文台が開発した4次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像を天文指導員の解説を交えて上映した。(平成22年11月、平成23年2月)

【実績】実施回数72回 参加者数3,314名

(カ) 学校連携・支援事業等

小中学生を対象に、理科授業支援の一環として「プラネタリウム学習投影」を実施した。

(キ) 天文指導員の養成事業

天文に興味をもっている学生や一般を対象に定期研修や天文事業への参加機会を提供し、天文普及の一翼を担う人材を養成した。

【実績】登録者数57名 修了者数11名

ウ 共催事業

(7) 札幌市中学校 私たちの科学研究発表会(共催:札幌市中学校文化連盟)

市内中学校の科学クラブを対象にした研究活動発表会に協力した。(平成22年11月)

【実績】13校41テーマ 309名

(4) 科学技術週間事業「科学映画会」(共催:日本科学技術振興財団)

科学技術週間に協賛して科学技術映像祭の入選作品を上映した。(平成22年5月)

【実績】入場者数401名

(5) 青少年のための科学の祭典札幌大会(共催:日本科学技術振興財団他)

中高生を中心とした出店形式による実験や工作を行う科学の祭典に参加・協力した。(平成22年9月)

【実績】3,073名

(1) 気象講座(共催:日本気象学会北海道支部)

身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師による最新の研究・情報の紹介を交えた講座の実施に協力し、気象学の啓発を図った。(平成22年7月)

【実績】21名

(オ) 宇宙の日 作文・絵画コンテスト（共催：文部科学省、国立天文台 他）

宇宙の日（9月12日）を記念して、小中学生から「宇宙に関する作文・絵画コンテスト」の作品を募集し、審査・表彰を行った。

【応募数】 作文 小学生 58名・中学生 1名

絵画 小学生 182名・中学生 16名

(カ) 札幌市創意くふう作品展（札幌市創意工夫教育研究会 他）

市内の小中学生が自由研究等で制作した作品のコンテストで、表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。

【展示数】 89点（応募数 450点）

(キ) 北海道青少年科学技術振興作品展（北海道発明工夫教育連盟 他）

道内の小中学生が自由研究等で制作した作品のコンテストで、入賞者への表彰式を行うとともに、応募作品の展示を行った。

【展示数】 60点（応募数 116点）

(ク) 道民の森観望会（共催：財団法人北海道森林整備公社 道民の森）

当別町にある道民の森と共催で、札幌市内では難しい、星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。（平成22年5・8・9月）

【実績】 参加者数 1回目 124名／2回目 173名／3回目 45名

(ケ) さっぽろ星まつり（共催：札幌市公園緑化協会）

市内の大規模公園（前田森林公園）で、天体観望事業を実施した。（平成22年9月）

【実績】 2日間参加者数 6,000名

(コ) JAXAタウンミーティング in 札幌（共催：宇宙航空研究開発機構）（新規）

将来の宇宙開発や宇宙科学研究、航空技術開発につながるアイデアや方針の参考とするため、市民とJAXA職員である長谷川執行役・宇宙飛行士山崎直子氏との意見交換会を行った。（平成22年7月）

【実績】 191名

エ 学習支援・情報発信事業

(7) 学校連携支援事業等

理科授業や総合的学習への支援をはじめ、小中学校の学習指導要領に沿った事業を展開した。

(イ) 天文相談コーナー（星のへや）の運営

初歩的な疑問・質問への回答や、代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナー「星のへや」で学習を支援した。

(ウ) ホームページによる学習支援・情報発信

科学館ホームページ内に科学トピックスやワークシート等を掲載し、最新情報の提供や学習の支援を行った。また、天文サイト内では、「天文Q & Aコーナー」を開設し、本で調べることが難しい天文に関する質問への回答を掲載した。

(エ) 「科学館ニュース」等による情報提供

毎月「科学館ニュース」を制作し、館内に掲示するほか、市内小中学校・幼稚園等へ配布して、最新のイベント情報等を提供した。

(オ) 科学技術に関する資料の収集

解説の基礎資料とし、また展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

(カ) 天文資料の収集

天文に関する解説資料や出版物を収集するとともに、札幌市天文台及び移動天文車で天体写真を撮影し、資料として保存した。

オ 利用者等の声を活かす取り組み

(7) 科学館運営協議会

学校関係者や学識経験者、地域有識者等から成る協議会を新たに設け、科学館事業の検証や助言をいただき、運営に活かした。

(イ) 小学校・中学校連絡会

市内小学校及び中学校の理科教諭を中心に、科学館の在り方や、学校との連携方法等について、広く意見を聴取する場を設け、運営に活かした。

(ウ) 子ども科学会議

市内小学校の児童から、科学館への要望や、あったらいい展示物など、広く意見を聴取する場を設け、運営に活かした。

(エ) 利用者アンケート

特別展や特別投影等の主な事業において、利用者に対しアンケートを実施し、その後の事業に活かした。

(2) 札幌市生涯学習センター管理運営事業

札幌市の指定を受け、市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的に、札幌市生涯学習センターの管理運営を行った。

(支出額) 357,009,417 円

ア 貸室事業

ちえりあホール及び各種研修室を市民の幅広い学習活動の場として提供した。

ちえりあホールにおいては、さらなる利用促進を図るため、利用日前30日以内申し込みの直前割引サービスを継続して実施した。

また、陶芸室、焼窯室においても割引サービスを継続して実施し、さらに平成23年2月より、陶芸室と焼窯室を分けて利用できるように改め、利便性の向上を図った。

イ 施設の有効活用

展示スペースの無料提供、受験生等に対する空き室の開放等、利用者のニーズに合わせた弾力的な運営を行った。

ウ 利用者の声を活かす取り組み

(7) 生涯学習センター運営協議会

札幌市教育委員会が学識経験者等により設置した運営協議会に出席し、事業の検証や助言をいただき運営に活かした。

(イ) 利用者アンケートの実施

接遇等の満足度を測る利用者アンケートを実施した。結果は、市民からの意見等の分析と併せてセルフモニタリングに活用し、その後の事業へ活かした。

(3) 視聴覚センター管理運営事業

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的として、視聴覚センターの管理運営を行った。

(支出額) 30,239,497 円

ア 学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者に委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色ある教材を制作した。

【実績】新規制作教材数8本

イ 視聴覚教材貸出事業

市内の学校、幼稚園、児童会館、市立図書館、町内会およびサークル等の団体に対して、16ミリフィルム・ビデオ・DVD教材の貸し出しを行うとともに、新た

な教材を購入し、充実を図った。

また、ホームページ上で行っている自主制作教材の配信「デジタルアーカイブス」を新たに実施し、利用促進の充実を図った。

【実績】・教材貸出数：6,322本

（内訳：幼稚園 274 本、小学校 4,000 本、中学校 882 本、高校・養護学校 103 本、社会教育機関 1,063 本）

・新規購入教材数：45 本

ウ 視聴覚学習機会提供事業

学習活動や地域活動の中での利用促進を目的として16ミリ映写機操作技術講習会を開催した。

【実績】年4回

6 **収益事業**

(寄附行為第4条第6号に掲げる事業)

(収入額) 23,169,468 円 (支出額) 16,179,173 円

(1) **売店・自動販売機事業(札幌市青少年科学館)**

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

(2) **レストラン・自動販売機事業(札幌市生涯学習センター)**

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。